

生活者ネット候補予定者紹介

区議選・市議選に、41人の候補予定者の擁立を決定しました

■江戸川区

伊藤ひとみ(いとう・ひとみ) 1962年生まれ。2015年、江戸川区議。みんな違うからおもしろい! 多様性を認め合える社会をめざします。

本西みつえ(もとにし・みつえ) 1966年生まれ。2015年、江戸川区議。人と人をつなげ、誰もが自分らしく生きることが出来る社会をつくりたい。

きたざわ潤子(きたざわ・じゆんこ) 1961年生まれ。2011年、大田区議。すべての子どもたちの「生きる力」が最大限発揮される社会をめざします。

千葉さきえ(ちば・さきえ) 1979年生まれ。生活者ネット政策委員。子どもが大人になることに希望が持てる江戸区づくりをすすめます。

田中さやか(たなか・さやか) 1982年生まれ。2015年、品川区議。脱被曝・卒無関心命を守る政治を品川から! 多様性を認め合う社会をめざします。

吉田ゆみこ(よしだ・ゆみこ) 1954年生まれ。2015年、品川区議。掘り起こした品川区の問題・課題、私自身が取り組むために2期目挑戦します!

そね文字(そね・ふみこ) 1968年生まれ。2011年、杉並区議。多様性を認め合いたい、だれもがその人らしさを活かせる居場所をつくりたい。

奥田雅子(おくだ・まさこ) 1960年生まれ。2015年、杉並区議。セーフティネットのしくみを充実させ、だれも排除されない社会をつくる。

■世田谷区

高岡じゆん子(たかおか・じゆんこ) 1960年生まれ。2011年、世田谷区議。足元から格差を減らし、平和と環境を守り、暮らしの福祉を充実!

田中みち子(たなか・みちこ) 1966年生まれ。2015年、世田谷区議。誰一人取り残されない持続可能な社会の実現に向けて、居場所をつくりたい。

金井えり子(かない・えりこ) 1964年生まれ。生活者ネット政策委員。子どもの笑顔を守り、食と環境を大切に、安心して暮らせる社会をつくる。

塚田ひさこ(つかだ・ひさこ) 1962年生まれ。生活者ネット政策委員。一人ひとりの価値を大切に、お互いの多様性を認め、孤立しない共生社会に。

細野かよこ(ほその・かよこ) 1962年生まれ。2015年、中野区議。地域から、自治体から、一人ひとりが大切にされる社会をめざします。

きみがき圭子(きみがき・けいこ) 1957年生まれ。2011年、練馬区議。区民を差別し排除する区政をただし、公平・平等な地域社会をつくりたい。

やない克子(やない・かつこ) 1962年生まれ。2014年、練馬区議。福祉・環境優先、人権と多様性を認め合う地域社会の実現に取り組みます。

すどうのぶえ(すどう・のぶえ) 1962年生まれ。生活者ネット政策委員。人権を大切にジェンダーの視点で、格差や差別のない社会をめざします。

渡辺夏子(わたなべ・なつこ) 1981年生まれ。生活者ネット政策委員。必要助けが、必要な人に届けられるような仕組みづくりをめざします。

村上洋子(むらかみ・ようこ) 1955年生まれ。2015年、稲城市議。住みたいまちは人のつながりのあるまち、活かそう「市民力」!

まつぎき淑子(まつぎき・よしこ) 1959年生まれ。生活者ネット政策委員。政策を「寄り添い、考え、提案する」市民と共に活動していきます!

■多摩市

岩崎みなこ(いわさき・みなこ) 1960年生まれ。2015年、多摩市議。子どもを含むすべての人権が尊重され、言葉に出来る社会の実現へ!

岸田めぐみ(きした・めぐみ) 1983年生まれ。生活者ネット政策委員。子どもの人権が守られ、生きていく力を身につけられるよう支援をします。

木下やすこ(きのした・やすこ) 1973年生まれ。生活者ネット政策委員。憲法をしっかりと心に刻んで、一人ひとりが大切にされる社会を築きたい!

前田よし子(まえた・よしこ) 1970年生まれ。2015年、八王子市議。多世代が集える居場所、特技を持ちよりながら、楽しくつながる地域に。

きたあや(きたあや・あや) 1981年生まれ。生活者ネット政策委員。多様な生き方を尊重し共に生き、社会、困ったときに SOS を出しやすい環境を。

西のなお美(にしのみ・なおみ) 1969年生まれ。2015年、府中市議。子育て世代の暮らしを安心、豊かに、子ども若者支援を充実させます。

奥村さち子(おくむら・さちこ) 1963年生まれ。生活者ネット政策委員。市民力を活かす地域連携を進め、誰もが孤立しない地域社会を実現します。

篠原ゆか(しのはら・ゆか) 1982年生まれ。2011年、昭島市議。地域の人が緩やかにつながり支えあう、やさしい温かいまち、昭島をつくりたい。

林まい子(はやし・まいこ) 1977年生まれ。生活者ネット政策委員。多様であることを受け入れてくれる社会を実現し、次世代に引き継ぎたい。

小西みか(こにし・みか) 1966年生まれ。2011年、清瀬市議。だれにも居場所と出番と役割があり、一人ひとりを大切にすすまち、清瀬に。

こはまかおる(こはま・かおる) 1974年生まれ。生活者ネット政策委員。すべての子どもと共に生き、共に学ぶ、困ったときに SOS が出来る国に!

■国分寺市

岩永やす代(いわたが・やすよ) 1971年生まれ。2011年、国分寺市議。共に育ち、働き、暮らすまちづくりをすすめるために3期目に挑戦します!

高瀬かおる(たかせ・かおる) 1961年生まれ。2011年、国分寺市議。世代を超えて、一人ひとりに「真に寄り添う」福祉のまちをつくりたい。

津村ちさと(つむら・ちさと) 1968年生まれ。生活者ネット政策委員。生活に直結した課題に取り組み、「国分寺市でよかった」と思えるまちづくりに力を尽くします。

さとう悦子(さとう・えつこ) 1964年生まれ。2015年、小平市議。子どもの権利条例の制定をめざし、介護家族支援のための施策を充実させます。

山崎とも子(やまさき・ともこ) 1968年生まれ。2017年、小平市議。だれひとり取り残さない共生のまちづくりをすすめる平和な社会を守ります。

山浦まゆみ(やまうら・まゆみ) 1974年生まれ。生活者ネット政策委員。政治と暮らしをより近づけるため、生活者としての視点で全力を尽くします。

白石えつ子(しろいし・えつこ) 1959年生まれ。2015年、東村山市議。高齢者や障がい者にやさしいまちづくりをすすめます!

桑原りさ(くわはら・りさ) 1962年生まれ。2003年、東村山市議。孤独な育児経験でつながる大切さを実感。誰でもいつでも頼れる場づくりを!

じつかわま子(じつかわ・まこ) 1965年生まれ。2011年、東大和市議。一人ひとりの想いを大切にしながら、市民のネットワークを広げていきます。

三原智子(みはら・ともこ) 1967年生まれ。2015年、福生市議。子どもを真ん中にまちづくり! 子どもの権利が尊重されるまちをめざします。

西園寺みきこ(さいおんじ・みきこ) 1958年生まれ。2011年、武蔵野市議。やっぱり市民目線が必要! ネットにしか言えない発言が続いていきます!

2019統一地方選! 生活者ネットワークの提案



大事なのは市民が決める
●公共施設の再編整備は市民参加(住民主体)で!
●まちづくりは子どもが参加するしくみをつくる
●市民の知る権利を保障する/情報公開を徹底する
●議会への市民参加を進める

みんなが幸せになる「ジェンダー主流化」を進める
●女性の人権を守る!被害の救済・支援のしくみを整える
●セクハラをなくす
●性的志向・性自認(SOGI)を尊重し、多様性を認めあう
●自治体における男女平等参画を進める

命・暮らし・遊び・学び「子どもの最善の利益」を保障する
●虐待をなくす
●障がいがあってもなくても共に学びあう学校をつくる
●多様な学びを保障する/学び直せるリカレント教育を進める
●人権・生命尊重の視点からの性教育を進める
●子どもの育ちを応援する「子どもの権利条例」をつくる

介護・医療・福祉の連携で安心の地域をつくる
●高齢者や障がい者の在宅生活を支える

障がいの有無にかかわらず共に暮らせるまちを実現する
●障がい者差別解消条例制定をめざす
●移動の確保、居場所の創出で高齢者、障がい児・者の社会参加を保障する
●障がい者も共に働く場をつくる

切れ目のない支援で子ども、若者、女性の貧困対策を
●教育格差をなくす
●給付型奨学金制度の充実をはかる
●非正規雇用でも社会保障に加入できるように
●みやや同一価値労働同一賃金の労働環境を整備する

防災・減災対策は福祉と環境優先で!
●避難所づくりは女性の参画で!
●災害用備蓄に液体ミルクやアレルギー対応食を入れる

食の安全をまもる、都市農業をまもる
●遺伝子組み換えについて全食品の表示を徹底する
●学校給食と学校農園の活用で、食農教育を進める
●地産地消を進め、都市農業と農地を守る

原発ゼロ! 持続可能な環境を次世代にわたす
●「有害」をなくす
●マイクログロブラスチック汚染をストップさせる
●雨水の地下浸透・循環利用で、水資源を有効活用する
●脱炭素・脱原発/省エネ創エネで持続可能な「地域エネルギー計画」をつくる
●東京の空と暮らしをまもる「羽田都心低空飛行」経路案は白紙撤回!

憲法をまもり、活かす!
●平和への思い・戦争体験を継承する
●オスプレイ配備や強化訓練に反対し、基地問題に取り組む
●多文化共生社会をめざす

生活者ネットワーク3つのルール

- 1 議員は交代制(ローテーション)
- 2 議員報酬は市民の政治活動資金に
- 3 選挙はカンパとボランティアで

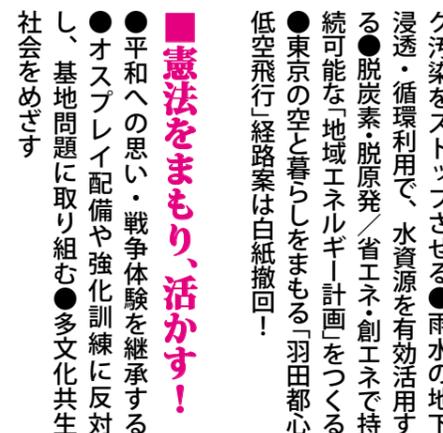
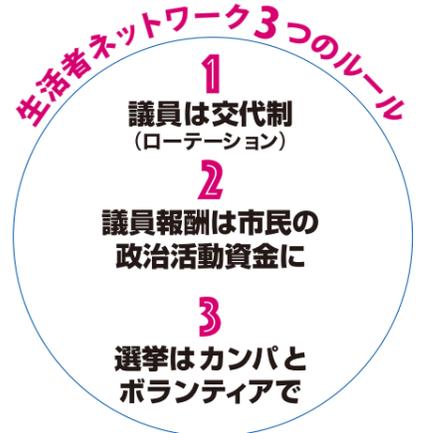
生活者通信

生活と政治をつなぐ情報紙

No.331
2019.4.1

東京・生活者ネットワーク

発行 東京・生活者ネットワーク
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル4・5階
TEL.03-3200-9189 FAX.03-3200-9274
Eメール tokyo@seikatsusha.net
URL http://www.seikatsusha.me
発行責任者 西崎光子
定価 年間1000円・1部100円 郵便振替口座 00130-3-18417
毎月1回1日発行 1994年5月23日第三種郵便物認可



Information

企画展示 3・11 独立運動 100 年を考える—東アジアの平和と私たち
開催中～6月23日(日) 12:00～17:00 休館日:月・火 高麗博物館展示室(東新宿駅) 400円(中高生200円) NPO 高麗博物館 03-5272-3510

墜落と爆音のない空を! 町田商店街・米軍機墜落事故から 55 年
4月21日(日) 14:00～ 町田市民文学館ことばらんど大会議室(町田駅) 講演と映像:金子豊貴男(第5次厚木基地爆音訴訟副団長) 500円 厚木基地爆音防止期合同盟町田支部 080-2093-8162

基地・軍隊はいらない! 4.29 集会 沖縄の元海兵隊員による性暴力被害から 3 年
4月29日(月・休) 18:30～ 文京区民センター 3A 会議室(春日駅・後楽園駅) お話:高里鈴代 音楽:宮城善光 500円 集会実行委員会 090-3910-4140

2019 平和といのちと人権を! 5・3 憲法集会—許すな!安倍改憲発議
5月3日(金・休) 11:00～ 有明防災公園(国際展示場駅・有明駅) 戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会 03-3526-2920

東京・生活者ネットワーク

都議会REPORT



水道事業の民営化断固反対! 人材育成と技術の継承を

東京・生活者ネットワーク都議会議員

山内れい子 [国立市・国分寺市]

築地再開発の補正予算に
ネットは反対

2018年度最終補正予算案には、築地市場跡地を市場会計から一般会計で買い取る(有償所管換え)5423億円が計上された。この補正予算審議をめぐって各会派の思惑がぶつかり、まず当該委員会が真夜中になり、さらに本会議が日をまたいでようやく深夜に知事の施政方針演説が始まるなど異例の事態となった。この間、6会派(自民、共産、立憲民主、維新、ネット、自由を守る会)は委員会への知事出席を求め、折衝の結果ようやく收拾した。

問題になった築地再開発は、小池知事が2017年6月に示した「築地は守る、豊洲は生かす」という基本方針が、今年1月に出した築地まちづくり方針案では、「食のテーマパーク」や、仲卸業者が築地に戻る方針が盛り込まれなかった。こうした知事の基本方針の転換や、築地跡地の有償所管換えを新年度予算案ではなく補正予算案に計上したこと、知事の説明責任を求め、最大の論点となった。知事は一貫して「基本方針の方向性は変えていない」と答弁。知事が出席して3月4日午前に開かれた経済・港湾委員会では、小池知事の姿勢について一問一答を行ったが、平行線のままだった。3月6日、中途議決で補正予算案を採決する本会議は、共産党の提案で記名投票が行われ、賛成75票、反対50票と賛成多数で可決された。

水道事業の民営化
断固反対を表明!

昨年国会では、十分な審議のないまま多くの反対を押し切つて、「改正水道法」が、またもや強行採決で成立した。水道事業

▶第18回東日本大震災子ども支援意見交換会「東日本大震災から8年を迎えた子どもたちの今」主催:生活者ネットも参加する「東日本大震災子ども支援ネットワーク」(事務局長:森田明美(東洋大学教授)、ゲストスピーカー:宮城県南三陸町や岩手県山田町出身の若者を迎えての今回、当事者が問う「私たちの8年間」「子ども・若者への継続支援の必要性」は重い、国会議員・関係省庁・市民活動団体などが共有、同時に主催者から「東日本大震災子ども白書」編纂の必要性が提起された。3月7日、衆議院第二議員会館



3.11から8年 —東日本大震災を 忘れない



▶第66回東電本店合同抗議「経産省前テントひろば」と「たんぼぼ舎」の呼びかけ、133団体が賛同する月例行動の特別版。鎌田慧さん、福島から避難の鴨下祐也さん、亀屋幸子さん、元東海村議の相沢一正さんらが発言。東電社長あての申し入れを行った。歌や太鼓演奏、コールで、「東京電力は原発事故の責任をとれ!」(崎崎川羽原再稼働するな)「日本原電に債務保証するな」と訴えた。3月10日

■多くの人が家族を奪われ、家を失い、故郷を追われ、それまでの暮らしへの決別を余儀なくされた未曾有の大震災、そして原発災害。あれから8年。被害にあった人々を、子ども・若者を支えようという人々が国内外で立ち上がり、つながりともに生きる活動が継続されてきた。世界中が福島原発事故を契機に、「危険な原発は終わらせよう/エネルギーシフトを始めよう」と声を上げ行動した8年でもあった。■環境・人権を価値基盤に、9年目の歩みを踏み出した取り組みからレポートする。

に外国資本も参入できるコンセプション方式導入が可能になった。国は、水需要の減少がわかっているながら過大な水需要をでっち上げ、ダムなどの水源開発にまい進し、不要な水を引き取るための負担を水道事業者に押しつけ、さらに公務員削減の大合唱のもと、技術継承の要である現業職員の削減を自治体に強いてきた。その総括もないままに民営化を掲げ、水道法を改正したのである。この背後には、水メジャーと呼ばれる巨大多国籍企業への利益誘導が疑われている。全国的に、水道施設の老朽化でコストがかかる一方、節水と人口減少で水の使用量が減り続け、水道事業の経営が厳しくなっている。老朽化した水道管や施設の更新が必要になっており、自治体の多くは水道料金の大幅値上げが避けられない事態だ。

東京でも、すでに民間委託がどんどん進められてきた現場では、熟練した技術を持つ職員がいなくなり、技術の継承は水道局にとって大きな課題だ。このままでは、受託事業者をチェットクする技術すら水道局職員に残されなくなることが危惧される。生活者ネットワークは、水道事業の民営化に断固反対であることを表明し、人材育成と技術の継承を求めた。

ゲノム編集技術と 食の安全

ゲノム編集、
すでに広がっている
食品への応用

ゲノム編集技術の応用が急速に進んでいます。作物や食品の分野では、すでに栽培され市場化されているものもあります。その先端にいるのが米国で、2015年からベンチャー企業のサイバス社が開発した除草剤耐性大豆の栽培が始まり、2018年にはケイリクス社が開発した高オレイン酸大豆が収穫され、流通を始めました。ケイリクス社は次に、高食物繊維小麦を2020年までに栽培する予定です。その他にもうどん粉病抵抗性小麦、高オレイン酸低リノール酸大豆などを開発しており、市場化を図っていく予定とのことです。同社以外にもトランス脂肪酸を含まない大豆、変色しないマッシュルーム、アクリルアミド低減ジャガイモ、干ばつ耐性トウモロコシ、収量増小麦などの開発が進んでいます。遺伝子組み換えでは反対が強まり挫折した小麦での開発が目立ちます。日本でも農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)が、「シンク能変変種」を開発し、2017年度から5カ年計画で栽培試験を行っています。この稲は、籾数を増やし、収量増加をもたらすことになっています。世界的には作物だけでなく動物での開発も盛んです。

ゲノム編集は、遺伝子の動きを壊す技術です。生命体はバランスや調和で成り立っています。体を大きくする遺伝子がある一方で、あまり大きくなり過ぎないように抑制する遺伝子があります。その一方の遺伝子を壊すと、さまざまなことができます。大きくなる遺伝子を壊すと、小さいままの動物が誕生しますが、中国ではすでにマイクロ豚がペットとして販売されています。逆に抑制する遺伝子を壊すと、成長が早く肉の多い魚や家畜が誕生します。これもすでに市場化が間近です。ゲノム編集により極めて簡単に特定の遺伝子を壊せることから、いまや遺伝子操作の主流になりつつあります。同じ遺伝子操作技術ですが、遺伝子組み換えは、他の生物の遺伝子を挿入して生命体を改造する技術であるのに対してゲノム編集は特定の遺伝子を壊して生命体を改造する技術です。壊した遺伝子の代わりに新たな遺伝子を挿入する組み換えも可能になっており、まもなくそのような作物や家畜が登場することになりそうです。次々に開発されるゲノム編集生物をにらみ、日本では昨年7月から環境省が、9月からは厚労省が検討を進めてきました。きっかけは昨年6月15日に閣僚会議で決定



ゲノム編集でムキムキ豚? 出典:「私たちはモルモット?!」ゲノム操作食品(日本消費者連盟)

した「統合イノベーション戦略」です。戦略の要の位置にある技術だとして、今年度中にゲノム編集を積極的に推進できるように法律や指針を整理し、政権が指令を発したのです。その結果、環境影響評価も食品の安全審査もほとんど必要ないという結論が出され、推進一辺倒になったのです。このままでは食品表示もされません。ゲノム編集技術は、遺伝子を壊す技術ですが、目的外の遺伝子を壊す「オフターゲット」が起きます。さらにはゲノム編集した細胞と通常の細胞が入り乱れる「モザイク」も起きます。とても安全とは言えない技術です。政府の結論は、私たち市民の健康よりも、技術開発や経済を優先してのことです。ジャーナリスト 天笠啓祐



編集後記/ 3.11に前後して、各地でたくさんの集会などが行われました。10日の日曜日は、東電前追悼と抗議→日本原電本社前抗議「東海第二原発を廃炉に!」→デモと「原発いらない」の一日だった。同日、首都圏原発連合の「原発ゼロ国会前大集会」では、小黒英二さんが、「民意の支持がある運動が、落ち目の産業を相手にして、負けるはずがない」とスピーチしたという/いよいよ、統一選の区議選・市議選が迫ってきた。原発ゼロへの道を進めるためにも全員当選をめざします!(上坂)